

不定期便『おじさんの言いたい放題』

あなたはお子さんに何を残しますか。



今年の夏は、ほんとうに暑かった。もうこんな夏はいやだ。温暖化が怖い。でもやっとうさい、秋の気配かな。秋分の日とは言い得て妙。その気配につられて、おじさん、いっいなくまじめなことを考えちゃったよ。

それはこんなことです。 (じやじやじや〜)

塾生のみなさんのことは、いつも真剣に考えていますよ、オホホッ

私たち親は順当、いや幸いなら子どもたちよりも先に天寿をまっとうするはずですよ。早い話が子どもより先に死ぬ。そのとき、私は彼らに何を残すことができるのか。

そして、何を残してあげられるのが真剣に考えました。この世のおおれの日必ず来ますには、何一つ持って行けないのですから。

思い出さへも。神様もお人々が悪い

私たち親が子どもたちに残せるもの。それは数え切れないほどの種類があります。

しかし、それらをよくよく精査、大別してみると、お金、土地、建物などといったものに代表される物(質)的資産。目に見える贈り物といってもいいでしょう。

一方、子どもたちが自立し、豊かで幸せな生活を送ることを支えてくれる知力や人間力といったものに代表される知的資産。目には見えない贈り物という、この二種類。どちらもすばらしい資産・財産・贈り物です。

(お金が一番いいって)

この両者を時間的経済的見地で考察すると、前者は原則、贈り主自身が一生をかけて、こつこつと積み上げていけば目的達成可能(?)な分散型投資なのに対し、後者は、渡し手はただただ影からその子を支援するのみ。加えて、その子の自立(学校卒業、社会進出)前には準備、構築(分かりやすくいえば、種まき・育成)していなければならないといった時間的制約のおまけつき。つまり、先行投資型かな。

(前者は瞬間、子どもたちは大喜び。後者は裏方。すべしおやじだったなんて、決して言ってもらえないし、感謝もされない。トホホ)

私に限っていえば、欲張りなたちなもので、できればそのどちらも残してあげたいと

思うのですが、といっても、前者は無理なようですがどちらか一方のみとなると、悪い頭で自問した結果、本人の知的資質を本人の財産として残してあげたいという結論に達しました。

(とくに、子育てを卒業し引退した身なのですが)

かれらの一生は、山あり谷あり。楽しいことばかりだとは限りません。悩んだり、傷付いたり、苦しんだり。失望感、不安感を抱いたり、乗り越えなければならぬ山もあまた出現する

でしょう。それを克服する知力、行動力、現状分析・自己分析力などを支えに、世の中の渦に巻き込まれず流されずに、自分自身の道を歩んでほしいと考えるからです。(かっこつけかな)

さてさて、あなた親御さんはお子さんに何を残したいですか?

『オレは何も残さないよ』って。ぎくりー!それもありが…? (ん〜)

歳をとっっちゃじいじいなんでもいっい考えてしまっのですよ。秋の夜長いな。

(前者を選ばれた故人にお尋ねしたい。それは正解でしたか?)

『秋の夜長に物思っ』より

中央塾-ようこそ

検索

URL;http://www.chuuou-juku-nettodegenki.com/